

糖尿病対策推進会議と日本糖尿病協会の医療スタッフ登録・登録医・療養指導医

加藤内科クリニック 管理栄養士・糖尿病対策推進会議委員 加藤 則子

1, 糖尿病対策推進会議

糖尿病患者人口増加阻止ならびに合併症の発症・進展阻止運動を全国的に展開するために、日本医師会・日本糖尿病学会・日本糖尿病協会の3者が合同で糖尿病対策推進会議を設立したことはご存知のことと思います。2005年2月9日に第1回設立総会が行われ、「日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック2005-2006」(10ページ)には療養指導士の活動の場としての期待が述べられています。

各都道府県の糖尿病協会から医師と医療スタッフが各1名、糖尿病学会および医師会から選出された医師がこの会議のメンバーです。現在、啓発活動の事業計画が都道府県ごとに策定され、実施に向かって形が整いつつあります。地域によっては、保健所などの行政担当者や薬剤師会・看護協会・栄養士会・臨床衛生検査技師会が加わったところもあり、大きな力となることでしょう。

啓発活動自体にはおのずと地域差が出てきます。よって、このような推進会議は、他県の良いシステムを取り入れるチャンスでもあり、全国規模での運動の優れた点となります。

第2回総会が2006年11月22日に行われました。

2, 日本糖尿病協会の療養指導部会・医療スタッフ登録とは

2006年5月より、日本糖尿病協会が療養指導部会を設立しました。各県の協会から選出された糖尿病対策推進委員会の委員は同時に協会の療養指導部会の役員になります。

2005年の集計では、協会の会員数は約8万人、うち医師を含む医療スタッフが約1万4千人です。日本糖尿病療養指導士の総数が現在11,929人ですから、協会活動に参加していない方も大勢いると推計されます。

協会では日本糖尿病療養指導士の方に多数登録していただき、そのパワーを生かしたいと願っています。ただ、日本糖尿病療養指導士の所属医療機関に友の会がないことも多く、その場合は個人会員として協会に入会することができます。

3, 登録医・療養指導医制度について

2006年6月より、糖尿病患者友の会指導医(友の会を作っている医療機関の主治医)は『日本糖尿病協会療養指導医』という名称に変更されました。

新たに友の会を設立した場合は、まず『日本糖尿病協会 登録医』となり、一定の活動(2年以上)を経た後、条件を満たせば更新時に『療養指導医』を取得することになります。

目的は、糖尿病を専門としない医師であっても、患者会を作ることができ、協会に入会でき、一定の講習会に参加して、糖尿病の療養指導実績を増やして頂きたいということです。このようにして、友の会を増やし、協会の会員を増やすことができるなら、糖尿病啓発活動にもつながるでしょう。(詳しくはさかえ2006年11月号64～65ページをご覧ください。)

協会では『登録医・療養指導医』を糖尿病療養指導に熱心に取り組んでいる医師として対外的に公表し、患者さんからの希望があれば紹介する考えもあり、積極的に活用したいとのことです。

多くの名称が生まれましたので、日本糖尿病療養指導士の我々も周知していきたいと思います。

名称		構成
糖尿病対策推進会議		日本医師会の各都道府県担当医師 日本糖尿病学会の各都道府県担当医師 各都道府県糖尿病協会の医師と医療スタッフ
日本糖尿病協会	療養指導部会の役員	日本糖尿病協会の糖尿病対策推進会議委員
	療養指導部会	日本糖尿病協会の医療スタッフ登録者
	登録医(2年で更新)	・新たな友の会の指導医師 ・糖尿病患者10人以上を診療している医師で協会に入会した医師
	療養指導医	・以前から友の会指導医 ・新たな友の会の指導医師で糖尿病学会専門医 ・友の会はもたないが協会に入会した学会専門医 ・登録医が協会の認める講習を4回/年受ける等条件を満たし、友の会を作った医師